



はっぴい



入学前教育(リトミック)



専攻科 国家試験壮行会



和泉授業体験会(その子らしさ・感性を育む表現教育)



## CONTENTS

2022年度 聖句

「キリストの言葉があなたがたの内に  
豊かに宿るようにしなさい。」

(コロサイの信徒への手紙 第3章 16節)



学校法人和泉短期大学2023年度事業計画	2
和泉短期大学の社会福祉教育について	3
TOPICS (クリスマスイベント 他)	4
入学前教育 他	5

# 学校法人和泉短期大学 2023年度事業計画

理事長 須田 拓



和泉短期大学は67年目の歩みを迎えます。しかし、18歳人口の減少に加え、2022年の出生数はついに80万人を割り込むなど、予想以上のペースで少子化が進行し、本学を取り巻く状況は厳しいものがあります。

しかし本学は、この厳しい時代の中でもなお良い保育者を生み出すために前進し続けて参りたく願ひ、2023年度の授業計画として以下の6つの柱を掲げます。

## 1. 建学の精神の深化

私立学校にとって、その存立の基礎にあるのは建学の精神であり、それに賛同する者たちが集まって自発的に建てられるのが私立学校です。和泉短期大学は、「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を建学の精神として掲げ、それに基づいて「愛と奉仕」をスクールモットーとしています。

和泉短期大学は、戦争で深く傷ついた子どもたちのために尽力されたクラーク博士が初代総主事を務めたクリスマスチャン・チルドレンズ・ファンド(CCF)の支援により、様々な社会事業やララ物資の支援等に尽力されたバット博士を記念したバット博士記念ホームと、その施設職員の養成所が設立されたことに起源を持ちます。それはキリスト教信仰抜きには起こり得ないことでした。その精神を受け継いでいくためにも、この

学校の存在は、常にキリスト教信仰から生まれ出てくるものでなければなりません。

2023年度は、チャペルアワーを重視し、またキリスト教信仰の本質がわかりやすく伝えられるように努めると共に、和泉短期大学のルーツを可視化して、入学者や新たに加わる教職員へのオリエンテーション等にも活用し、本学が確かな基盤を持った教育を行っていることを再確認したく願っています。

## 2. 将来ヴィジョンの策定と実行

2022年度は、学内で3回の将来構想会議を開き、これからの時代に和泉短期大学が掲げるべき方針と、あるべき姿について協議を重ねました。

和泉短期大学は、児童福祉学科としての保育者養成を目指し、長年にわたって「保育+福祉」を掲げ、子どもの権利を擁護できる保育者を育成することを目指してきました。この観点から、保育・教育の面でも福祉の面でもさらに教育を充実させていくと共に、本学独自の「保育ソーシャルワーカー」育成制度の開始を目指すなど、多様化また複雑化する現代社会にあって必要とされる保育者の姿を率先して提示し、その育成に力を尽くして参りたく思います。

こういった取り組みの一環として、2023年度から本学は喀痰吸引等研修を開講し、医療的ケアのできる保育者への道を開きます。また、上記のように、本学の目指すべき姿勢を検討し、再確認する中で、2023年度を以て募集停止とした専攻科について、そのプログラムが、高齢者介護の従事

者だけでなく、例えば障がいについて深く理解する質の高い保育者の育成や、子どもから高齢者まで人間をトータルに理解する児童福祉従事者の育成のためにも大きな役割を果たし得るとの認識に至り、短大の2年間と併せてヒューマンライフケアのトータル学びを提供するためのものとして、リニューアルした上で学生募集を継続する可能性を検討しています。

## 3. 第2次中期計画の実行と新中期計画の策定に向けて

本年度は、第二次中期計画(2020年度〜2024年度)の4年目にあたります。いよいよ第二次中期計画の完成に向けて、なお途上にある事項の実行に取り組みと共に、上記の将来構想を踏まえて、新たに取組むべき事柄を具体化し、2024年度の早期に第三次中期計画を策定できるように準備いたします。

## 4. 私立学校法改正への対応、コンプライアンスの強化

2022年度に短期大学設置基準が改正され、さらに近日中に私立学校法の改正が見込まれるなど、短期大学を取り巻く法制度が変化しています。本学はこれまでも短期大学版ガバナンスコードの制定などを通じて、ガバナンスの強化、コンプライアンスの強化に取り組んで参りましたが、この法改正への対応を通して、ますますステークスホルダー、そして社会から信頼される短期大学となるよう努めて参りたく思います。

## 5. 地域連携とリカレント教育の強化

地域密着型の保育者養成校として、ますます地域との連携を深めてゆきたいと思ひます。「はっぴい」や「すまいるい」を通して地域の方々の子育て支援の充実と共に、地域から保育者が生み出されていくために、早くから保育者の務めの素晴らしさを知って保育者を目指す方々が興されるよう、高校だけでなく、地域の小学校・中学校への働きかけも強化して参りたく思ひます。

また、高大接続・入学前教育を充実させると共に、卒業後も「面倒見のよい短大」であることを目指し、卒業生が本学に帰ってくる機会や、研修の機会を充実させ、さらに研修については卒業生に限らず広く開放して、地域の保育・福祉に貢献すべく、新たな取り組みを模索して参りたく思ひます。

## 6. ICT環境の充実と施設整備計画

和泉短期大学の1号館は築46年を経過しました。2023年度も必要な補修を行います。2023年度も必要となる改修が必要であるのか、また時代に合わせたような設備が必要であるのかなど、今後の校舎のプランの検討を開始したいと思ひます。

また、高度情報化社会にあつて、本学としても、ICT環境を検証し、必要な整備を行うために、2022年度に、学内にICT教育環境整備委員会を立ち上げました。ハード・ソフトの両面から、教育においても、事務組織においても、十分に情報を生かすことのできる環境を整えて参ります。



# 和泉短期大学の社会福祉教育について・24年の歩みを振り返って

地域連携推進センター長・図書館長 教授 鈴木 敏彦



私は1999年4月に和泉短期大学に奉職いたしました。以来24年間児童福祉学における社会福祉系の授

業を担当し、2023年3月をもって退職いたします。本稿では、和泉短期大学における社会福祉教育について、これまでの経験を踏まえつつ述べさせて頂きま

す。児童福祉学科での学びは、大別して「福祉分野」と「保育・幼児教育分野」の2つから成り立っています。2つの分野がそれぞれ専門性を尊重しつつ、両者の協働・協力があって、はじめて「子どもの権利擁護者」としての役割を果たすことができる児童福祉専門職養成の学びが完成すると考えます。

和泉短期大学は、そのルーツに「福祉」が深く関わっています。本学の歴史をひも解くと、福祉従事者の現任訓練機関・バット博士記念養成所の創設(1956年)、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母養成機関・玉川保母専門学院の設置(1960年)、和泉短期大学児童福祉科の設立(1965年)と、和泉短期

大学は常に「福祉」を基盤に据えながら、子ども・家庭・地域とともに歩む児童福祉専門職を養成する学び舎として歩んできました。

この間、「福祉」を取り巻く社会の状況は大きく変化いたしました。かつて、福祉は「welfare(ウェルフェア)」として貧困者救済等を特色としていました。21世紀を迎えた現代では、「well-being(ウェルビーイング)」として、より積極的に人権を尊重し自己実現を保障する役割が期待されるようになりました。すなわち、子ども・家庭を含むあらゆる人々が生活上の困難に陥ったとしても、単なる「保護の対象」ではなく「一人のかけがえのない存在」であり「権利主体」であることのリカバリーが現代の福祉の役割です。

21世紀の児童福祉を担う学生の皆さんに、授業を通して何を伝えるべきか…。正直なところ、今でも迷い続けています。が、私は社会福祉系の授業を担当するにあたり、以下の3つを大切にしていまいました。

第一に、「福祉の原理」への理解を促すことです。「福祉の原理」とは「福祉が大切にしている価値観、人間観等」とも言い換えられます。具体的には、人間の尊厳への深い敬意、人権の尊重、社会正義

の維持、多様性の尊重等が挙げられます。なぜ、貧しい人を助けなければならぬのか？なぜ、障害のある子どもと障害のない子どもが、ともに学ぶことが大切なのか？なぜ、人は偏見や差別をもち、それは社会にどんな影響を与えているのか？私は、学生の皆さんが、こうした根源的な問いかけを自らのなかに抱き、「福祉の原理」を基盤として、自らに、また社会に問い続けてほしいと思います。

第二に、児童福祉専門職に必要な「社会福祉サービスマン」に関する知識と技術(ソーシャルワーク)を身につけることです。例えば、多くの卒業生が進路として選択する保育所保育士の業務は、保育所の中だけにとどまりません。保育士には、子どもの家庭で起こっている問題に向き合い、また、地域の子どもを支える役割も期待されています。だからこそ、保育・子どもだけにとどまらず、幅広い福祉の知識を活用し、ソーシャルワークを展開することが求められます。

第三に、子ども(福祉サービスマン)の権利の理解と、児童福祉専門職の専門性を修得することです。先にも、「人権」という言葉を用いましたが、人権とは、「すべての人々が生命と自由を確保し、それぞれの幸福を追求する権利」あるい

は「人間が人間らしく生きる権利で、生まれながらに持つ権利」とされています。児童福祉専門職には、子どもや福祉サービスマンを利用する人々の「最善の利益」を意識し「人権」を守る・支える役割(権利擁護者としての役割)が期待されています。私は、児童福祉専門職の専門性は人権擁護であるといっても過言ではないと考えます。学生の皆さんが、権利擁護の担い手としての自覚をもち、その実践に力を尽くして下さることを強く期待しています。

私は、4月から「利他共生」を建学の精神とする母校・淑徳大学に赴任いたします。大学は、それぞれ建学の精神等に象徴される大学の個性を大切にしていきます。これからも、和泉短期大学が建学の精神である「キリスト教信仰に基づく教育と人格形成」を基盤とし、「児童福祉学」としてのアイデンティティを堅持し、「愛と奉仕」(スクールモットー)を実践する児童福祉専門職を一人でも多く育む場であり続けることを願ってやみません。卒業生・在学生の皆さま、教職員の間、24年間、有難うございました。

## TOPICS

## 児童福祉研究「いっしょに子育て」第5号刊行

本学の「児童福祉研究室」は、地元住民の皆様と子育ての悩みを共有し、支援していくことを目的に、年1回「いっしょに子育て」を発行しています。

2022年度の児童福祉研究「いっしょに子育て」第5号(本文48p)を刊行いたしました。創刊号から第5号まで、本学Webページ「地域・一般の方へ」の中にある「児童福祉研究室」のページからご覧になれます。

児童福祉研究室では、今後も地域の保育・福祉に貢献する情報を発信してまいります。



## 市民大学 2022年度後期講座開催

2022年11月11日(金)と18日(金)の2日間、市民大学を開講しました。

講師は専攻科介護福祉専攻の佐久間志保子特任教授が務め「地域で生活する高齢者の支援」と題した対面での講座です。

第1回目は相模原市の高齢化の状況、地域包括ケアシステム、地域包括支援センターの活用事例を学びました。第2回目は地域で自分にできることは何か、高齢者を地域で支える支援について受講生の意見を聞きながら講義が進められました。

受講生には相模原市内で高齢者に係る活動をしている方も多く、活発にご意見が上がり、「来年もまた開催してもらいたい」等の嬉しい声をいただきました。

市民大学はさがまちコンソーシアム事務局が運営しており、市民が大学・専門学校等で教授・講師の講義を受けられます。



## クリスマスイベント

## ●2022年度アドベント礼拝

クリスマスを待ち望む期間を「アドベント」と言います。

学生の手作りのオーナメントで彩られたクリスマスツリーが飾られるなか、2022年11月28日(月)と12月5日(月)に、アドベント礼拝をおささげしました。

礼拝では、西田恵一郎非常勤講師により「或るクリスマスの物語」、和寺悠佳チャプレンにより「わたしが行く」と題して、それぞれ説教がなされ、神様の御子であられるイエス・キリストがこの世界に生まれてくださったことの意味が告げられました。

クリスマスの前にしたひととき、クリスマスの意味を心に留め、クリスマスに示された神様の愛を感じる礼拝となりました。



## ●2022年度クリスマス礼拝

イエス・キリストのご降誕を祝うクリスマス礼拝を、2022年12月12日(月)におささげしました。

礼拝では本学 須田拓理事長が「恵まれた人」と題してお話しされました。イエス・キリストの母マリアが神様に用いられたように、保育・福祉を学ぶ本学学生と学びを支える教職員、その一人ひとりを神様が知っていてくださり、神様が用いてくださることが語られました。クリスマス礼拝は、クリスマスの真の意味を受けとめる、私たちが神様に愛されている存在であることを重ねて覚える、喜びの時となりました。

礼拝の中では、本学非常勤講師の千葉仁先生の指揮により、学生のハンドベルクワイアが賛美しました。



## ●2022年度学校法人和泉短期大学「クリスマスフェア」開催

2022年12月7日(水)に「2022年度第4回クリスマスフェア」(通算30回目)を開催しました。

## イベント内容

- ・100円お弁当…「ビーフブラウンシチューライス」「フライドチキンのセットピラフ」
- ・キャンパスコンビニ 全商品20% OFF
- ・キャンパスコンビニ先着50名にペットボトル飲料プレゼント
- ・キャンパスコンビニ コンビニ250円以上購入者 くじ引きによる景品プレゼント

100円お弁当は人気のため完売し、キャンパスコンビニも多くの来客があり盛況でした。今後も、楽しいイベントを実施してまいります。



## 2023年「教職員 新年礼拝」

和泉短期大学では、年の初めにまず礼拝があります。2023年1月6日(金)和泉クラーク・ホールにおいて、教職員、協力会社の方たちが一堂に会して「教職員 新年礼拝」をおささげしました。

須田理事長より「真の愛はどこから」と題して説教があり、イエス・キリストをお送りくださるほどの神様の愛によって和泉短期大学の歩みが支えられていることが告げられました。

礼拝後には、佐藤学長、土橋事務局長より年頭の挨拶がありました。

新しい年が神様によって守られるよう祈りを合わせるとともに、学生一人ひとりを支える働きの喜びを確認する時となりました。





## 2023年度入学生 入学前教育

清水 爽華さん (神奈川県立麻溝台高等学校)



入学前教育プログラムを受講して、感じたことが二つあります。

一つ目は、自分の気持ちの変化です。受験を終えた数ヶ月の間、本当に自分が保育者を目指すことができるのだろうかとして少し不安な気持ちもありました。しかし、様々な授業を受けるなかで改めて「自分は保育者になる」という強い志を持つことができました。

二つ目は、授業の内容です。どの授業も先生方の生徒に対する愛情を強く感じられ、4月からの生活がますます楽しみになりました。

入学後は、学びを進めていくなかで、子どもの目線を持つことを大切にしていきます。あつという間の2年間だと思いますが、日々の授業を大切に、楽しく過ごしていきたいです。

武子 琉那さん (日本大学第三高等学校「東京都」)



入学前教育では、これから一緒に学んでいく仲間と早く知り合って仲良くなる機会があり、嬉しかったです。入学前教育の一つである車いすと白杖の体験を通して、車いすで移動する怖さや押してくれる人との信頼関係、白杖を使って見えない状態で階段を歩く緊張感を、自分自身で体験することによって気づくことができました。

入学後は授業の進みの速さや課題で大変な思いをするかもしれませんが、自分が将来やりたいことである保育について学べることがたくさんあるので楽しみです。将来同じ方向を目指す仲間と支え合いながら、気づいたことや分かったことがあるたびにそれを自分の身につけて成長できるよう努力し、目標に向かって頑張りたいと思います。

専攻科介護福祉専攻 介護福祉士  
国家試験壮行会・事例発表会

介護福祉士国家試験を直前に控えた1月27日(金)。4日間通して行われた国家試験対策講座の締めくくりとして「壮行会」が行われました。例年通り、学長、事務局長はじめ多くの職員の方々が参加してくださいました。学生はこれまでの努力を「和泉」が見守ってくれたことを実感してくれたはず。また、土橋局長をはじめ教職員の方々より、学生へ応援エールをいただきました。力強い太鼓の音に、学生も力をもらい受験会場に向かったはず。1年という短い間で国家試験に挑戦するということは、まさに学生の努力の賜物ではありません。その努力に拍手を送り、その経験をこれからの人生に活かしてもらえればと教員一同願っております。

2月1日(水)。実習での事例研究の発表の場となる

## 事例研究集

2023年度

第13号

和泉短期大学

専攻科介護福祉専攻



「事例発表会」を無事に迎えることができました。多くの教職員の方々、新専攻科生が対面やオンラインで学生の発表を見守ってくださいました。専攻科では利用者の方々のよりよい生活の支援のために「根拠のある支援」を学んできました。専攻科生が1年という短い期間で、その学びを習得できるのは児童福祉学科と専攻科3年の学びの成果だと感じています。

(佐藤美紀 専攻科介護福祉専攻主任・准教授)

## 学修奨励奨学金、保育士修学資金、介護福祉士修学資金

## 2022年度前期 学修奨励奨学金受給生

安川 千尋 / 金城 奈々 / 井登友里葵  
荒川 結那 / 高橋明日香 / 霧山 碧  
菅原 愛子

## 2022年度 保育士修学資金

神奈川県  
生沼 伶果 / 高橋 美結  
川崎市  
山田 栞 / 名嘉山梨葉  
東京都  
佐々木祐奈 / 有泉 涼々 / 吉野 桃花  
宮本 桃葉 / 小野寺 葵 / 松原 梨紗

## 2022年度 介護福祉士修学資金

神奈川県  
村田 愛華 / 吉川 正剛  
東京都  
島田 鈴

## 人事

## ■退職(2022年12月23日付)

後藤沙也香 健康管理センター看護師

## ■就任(2023年1月16日付)

竹村由佳子 学生支援ユニット

## 表彰

## ■令和4年度全国保育士養成協議会会員校教職員表彰

(25年以上・60歳以上)

平塚 豊 事務局次長

## ■訃報

故 小山 重三 氏

小山方 ラーニングセンターwill基礎学力支援者 御尊父  
(2023年1月25日)

主による平安をお祈りいたします。

## 2022年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

**募金目標金額** 3,000,000円  
**募金募集期間** 2022年6月～2023年3月(第5期)  
**募金金額** 1□5,000円  
**払込方法** 郵便振替口座  
 □座番号 00280-6-105705  
 □座名 学校法人 和泉短期大学  
 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2022年12月1日～2023年2月15日>

和泉短期大学後援会/大谷 孝次/小椋 郊一/金成 泰宏/栗林 直樹/小池 教與/宗教法人的日本基督教団 相模原教会/須田 拓/  
 同窓会いずみ/土橋 正文/内藤 童代/匿名希望(4件) 以上15件 1,027,000円

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(経理担当)  
 042-754-1133

## 2022年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学院」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2022年5月に学校法人和泉短期大学は創立66年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は19,821名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2022年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

みなさまには出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**募金対象事業**

- 1号館 学習成果の可視化システムの導入
- 1号館 教室照明器具 LED電球交換工事
- 1号館 大教室 ウイルス除去防臭装置設置工事

寄付者一覧(敬称略) <2022年12月1日～2023年2月15日>

小椋 郊一/金成 泰宏/栗林 直樹/小池 教與/嶋田 順好/須田 拓/土橋 正文 以上7件 90,000円

**募金目標金額** 10,000,000円  
**募金募集期間** 2022年6月1日～2023年3月31日(第11期)  
**募金金額** 1 個人 1□ 5,000円  
 2 法人 1□ 10,000円

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(経理担当)  
 042-754-1133

## 公共職業訓練 神奈川県委託訓練「専門人材育成コース」(保育士)

和泉短期大学では2019年度から神奈川県の公共職業訓練神奈川県委託訓練校に選定され、第3期生10名が2023年3月14日(火)に訓練を修了し保育者として本学を巣立っていきました。

### 神奈川県委託訓練を修了して(第3期生)

#### 委託訓練生

子どもたちのために力になりたいという思いから保育士を目指すことを決め、和泉に入学させていただきました。

始めは緊張と不安でいっぱいでしたが、授業が始まってからは学ぶことの楽しさと喜びを感じる毎日でした。

私が充実した学生生活を送ることができたのは、先生方の情熱と同級生の皆さんの優しさに触れながら学ぶことができたからこそだと感謝しています。

卒業後も、「愛と奉仕」という言葉を忘れず、社会に貢献できるよう頑張りたいと思います。

#### 委託訓練生

入学式の時まだ歩けなかった息子は母のお手伝いができるほどに成長しました。和泉では児童福祉に関する学びだけでなく、一緒に学ぶ学生たちの優しさを感じ支えてもらった時間でもありました。異業種からの転身に不安もありましたが幅広い年齢の友人に囲まれ充実の毎日でした。教科書からだけでは得られない温かみの中で過ごせた2年間、先生、友だち、家族、すべてに感謝し、これからの保育士人生に繋げてまいります。